

授業科目名	マイクロ・マクロ経済学演習	単位数	2	開設期	後期
担当教員	河田 正樹	授業区分	現代経済学科		
対象学生	2年生	備考			

①授業のねらい・概要

マイクロ経済学とマクロ経済学で学んだ内容を定着させるために、**計算問題を中心とした問題演習**をおこないます。

②学習の到達目標

問題演習をおこなうことによって、マイクロ経済学、マクロ経済学の理解を深め、応用経済学を学ぶための十分な基礎を築きます。

一方で、公務員試験やERE（経済学検定試験）などの各種試験において、標準的な問題が解けるようになります。

③授業全体のすすめ方・指示事項

最初に、その日とりあげる内容について簡単に説明し、問題演習をおこないます。

そして、問題の解説をおこない、定着をはかるために、類題を宿題として出します。

演習問題は計算問題が中心となりますが、必要な数学の知識は、四則演算（ $+$ 、 $-$ 、 \times 、 \div ）、中学レベルの一次関数です。それ以上の内容は、講義時間中に時間をかけて説明します。

④授業計画

第1回	ガイダンス、マイクロ経済学演習（1）消費者理論①
第2回	マイクロ経済学演習（2）消費者理論②
第3回	マイクロ経済学演習（3）消費者理論③
第4回	マイクロ経済学演習（4）消費者理論④
第5回	マイクロ経済学演習（5）生産者理論①
第6回	マイクロ経済学演習（6）生産者理論②
第7回	マイクロ経済学演習（7）生産者理論③
第8回	マイクロ経済学演習（8）市場理論①
第9回	マイクロ経済学演習（9）市場理論②
第10回	マクロ経済学演習（1）国民所得理論①
第11回	マクロ経済学演習（2）国民所得理論②
第12回	マクロ経済学演習（3）IS-LM分析①
第13回	マクロ経済学演習（4）IS-LM分析②
第14回	マクロ経済学演習（5）AD-AS分析①
第15回	まとめと復習

⑤成績評価の方法

期末試験の成績と、講義時間内および復習として課される演習問題への取り組みによって評価します。詳細は初回講義において説明します。

⑥成績評価の基準

成績評価の項目	具体的な内容と方法	評価割合（%）
定期試験（期末試験）	試験期間に期末試験を実施します。	50
レポートや提出作品の評価		0
平常点評価 （小テスト、発表、グループ作業の成果、授業態度）	講義時間内および復習として課される演習問題への取り組みによって評価します。	50
その他（ ）		0
合計		100

⑦教科書

使用しません。状況に応じて、マイクロ経済学、マクロ経済学で使用したプリントやテキストなどを持参してもらうこともあります。

⑧指定図書・参考書等

開講時までに指示します。

⑨メッセージ

講義用HP（<http://www2.tokuyama-u.ac.jp/kawada>）も参照してください。